

筑波のかえる 第41号



脳損傷友の会・いばらき
2018年12月15日発行



脳損傷友の会・いばらき

〒300-2622

茨城県つくば市要1187-299

筑波記念病院リハビリテーション部内

TEL 080-8430-3365

FAX 029-877-4688

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/index.html>

《 4 1 号内容一覧 》

はじめに（小野瀬副会長）	1
役員会から	2
要望書提出・部長面接	3
第2回高次脳機能障害者支援従事者研修会を終えて	4
新聞記事から	5
第2回リハビリ講習会に参加して	6
高次脳機能障害についての勉強会	7
コラージュ教室を振り返って	8
交通事故被害者家族ネットワーク・	9
北関東地区家族会交流会	9
県南の広場（クリスマス会）	10
県北の広場	12
神栖の広場・事例検討会・心の健康づくり講演会	14
がんばってる人⑥	15
施設訪問④「さとう障がい者支援センター」	16
施設訪問⑤「Functional Training Center」	17
おしらせ・編集後記	18



表紙の写真は、ある当事者さんのお気に入りのジグソーパズル3点です。中でも1番のお気に入りを真ん中に配置しました。仲のよさそうな二人はご本人とお母さんだそうです。周りにご本人手作りの花を散らしました。

はじめに

「人生は山登りに、にている」

年末を迎えて、今年一年を振り返ってみると実にいろいろな出来事がありました。次々と起こる自然災害は日本だけに限らず世界各地で起こり、様々な影響がありました。



家族会では、県立リハビリテーションセンター廃止から高次脳機能障害支援センター設立までの経過を気にもみ、家族会役員の入れ替わりでの心配、そして私的には高次脳機能障害の息子の失業問題などここにあげたらきりがなくらいの問題を抱えながらの一年間でした。

それでもいつかは何とかなるんですね。私たちを苦しめた猛暑や台風でさえ過去の事になりつつあります。そして県リハは廃止されましたが「高次脳機能障害支援センター」は設立されて積極的に活動していますし、家族会も場所や役員は変わりましたが、それなりにやっています。

そして何よりも安心したのは、息子も何とか就職して働いている事です。

時間が、問題の全てを解決してくれるわけではありませんが、自分の気持ちを楽にするためには時間が必要なのですね。

高次脳機能障害になってしまった時が一番辛く、そこから少しずつ這い上がってくるまでは時には急降下したりもするので、思うように進みません。しかし落ちることに慣れると途中で何かに掴まったり、どこかにつかえ棒があったりして、一番辛いところまでは落ちません。

それは当事者も同じではないでしょうか。自営業という地味な仕事と山登りという趣味の合間に家族会の副会長を受けている私ですが、当事者や家族の掴まる何かやつつかえ棒になれたらいいなと思っています。今年一年どうにか過ごせそうなので、また来年いろいろあるでしょうがそれなりに生きていきます。



副会長 小野瀬

役員会から



平成30年度 脳損傷友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
12月	9日 県北集会 14日 家族会交流室 26日 神栖集会	19日 役員会	1日 リハビリ講習会 13日 支援従事者研修会 15日 会報誌発行
1月	11日 家族会交流室 17日 県北家族の集い 23日 神栖集会 県南集会（未定）		12日 地域包括ケア研修
2月	8日 家族会交流室 10日 県北集会 28日 神栖集会	役員会（未定）	
3月	8日 家族会交流室 14日 県北家族の集い 28日 神栖集会 バス旅行（未定）		15日 会報誌発行

役員会報告

- 平成30年10月17日 議事（1）要望書提出・障害福祉課関担当部長訪問
 （2）支援センター研修会を振り返って
 （3）河野先生勉強会について
 （4）家族会交流室報告

家族会交流室からの報告

- 平成30年 9月14日 相談者なし 会員6名
 ケアステーションモリヤ 米澤氏
 専門職協会 飯島氏
 支援センター 浅野氏
- 平成30年10月12日 相談者なし 会員7名
 支援センター 清水氏
- 平成30年11月 9日 相談者2組 会員7名
 ケアステーションモリヤ 米澤氏
 支援センター 清水氏・山中氏



要望書提出 ・ 担当部長面接

去る9月28日、県障害福祉課への「要望書提出」に参加しました。家族会からは8名の会員が出席しました。それに対して県保健福祉部からは5名の方が迎えてくれました。（支援センターからはうち2名）

まず、滝沢会長が要望書を松山課長に提出しました。今年の要望書には、「当事者・家族への長期的なケアを視野に入れた十分な支援の整備」などを訴えました。友の会出席者より直接意見を述べながら、対応していただきました。

次の担当福祉部長との面談になり部長室へ移動しました。関担当部長と石川次長も加わり、友の会役員との懇談となりました。高次脳機能障害に対する県の取り組みは、新しく支援センターが作られましたのでセンターを軸として、各地域の行政医療機関との連携を進めていく事だそうです。又支援していただく施設及び事業所等との協力も推進してまいりたいとお話しされました。又懇談の途中で、部長さんの息子さんもスキー場で転倒され一時脳震盪を起こしましたが大事に至らなかったとのお話もあり、今後の福祉政策に活かしていただけるのではないかという感想も持ちました。

要望書の回答に関しては、個々の要望に対して丁寧に回答いただいて居り、これから先に実行されていく事を期待したいと思います。（石井）

【 提出先 】

- 県保健福祉部障害福祉課
松山課長
根本課長補佐
中嶋係長
- 高次脳機能障害支援センター
小原センター長
山中コーディネーター

【 部長面接訪問先 】

- 県保健福祉部
関 清一担当部長
石川真澄次長
- 上記の5名も同席していただきました。



県に要望書を手渡す滝沢
静江会長（左）＝県庁

※ 提出した要望書に対する回答書を戴きました。その回答書は、会員・賛助会員の皆様には、会報に同封してありますのでご覧ください。

第2回高次脳機能障害者支援従事者研修会を終えて

高次脳機能障害者支援コーディネーターの山中俊広です。

平成30年9月29日に茨城県立医療大学の講義棟を会場に、「第2回高次脳機能障害者支援従事者研修会」を脳損傷友の会・いばらきとの共催にて開催いたしました。

第1部では、高次脳機能障害支援センター長の小原より支援センター業務概要に関する講演、第2部ではシンポジウム形式で高次脳機能障害当事者であるミュージシャンの藤井ケイイチ様、脳損傷友の会・いばらき顧問の丹羽真理子様から体験談を発表していただき、茨城県立健康プラザ管理者兼茨城県立医療大学付属病院名誉院長の太田仁史先生に応援メッセージをいただきました。

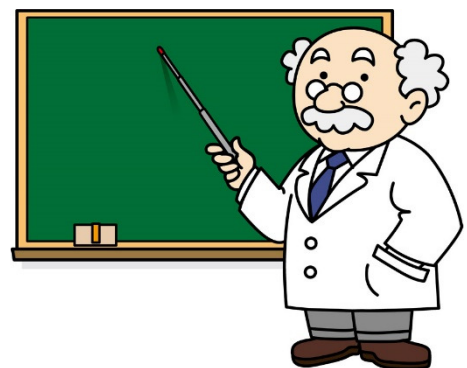
そして、第3部では缶バッジお披露目セレモニーとして、脳損傷友の会・いばらき会員の浅野こずえ様に考えていただいたデザインを元に高次脳機能障害支援缶バッジとして作成し、参加者全員に配布いたしました。

参加者からも「貴重な体験談を聞いて良かった」「当日にしか聞けない缶バッジ作成者からの裏話が聞いてより一層大切にしようと思った」といった感想が挙がりました。

私個人の感想としては、企画から当日の運営まで全体を通して、私の思い描いていた試合運びとはいかず、加えて不慣れな点も多くあり、一年分のハラハラドキドキを味わうことができたと感じております。しかし、藤井様の堂々たる発表や演奏、丹羽様の優しい声掛けやメッセージ、浅野様の不慣れな大舞台での一生懸命な姿に背中を押され、様々な方に助けられて無事に終えることができたと感じております。

今回は、新たな試みとして支援缶バッジの作成、脳損傷友の会・いばらきとの共催として会員の皆様に研修参加者へ缶バッジを配布する役割を引き受ける等、多くの場面で助けていただき、滝沢会長はじめ会員の皆様には心から感謝しております。私たち支援センターの活動も皆様の活動があってこそのものであります。

今後も一緒に手を取り合いながら、缶バッジに込めた思いの一つでもある高次脳機能障害の「支援の輪」がもっと広がって欲しいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



「ゆっくり見守って」

高次脳機能障害

啓発缶バッジ完成

脳卒中や交通事故などで脳を損傷した後遺症により、記憶力や注意力などが低下する高次脳機能障害の啓発用の缶バッジを県が作った。当事者である浅野(こず恵さん38)つくば市がデザインを手掛け、双葉と筆を描いた。浅野さんは「私たちも頑張っているので、ゆっくり見守ってほしい」と願いを込める。

高次脳機能障害は傷つけた脳の部位によって症状の種類や重さが異なる。身体障害のない人は見た目で分かりにくく、周囲から誤解されて当事者は生きづらさを感じることもある。今年4月に県立医療大(阿見町)の敷地内に県高次脳機能障害支援センターが開設し、支援体制が強化された。これを機に啓発を



缶バッジへの思いを語る浅野(こず恵さん) 9月29日午後、阿見町阿見の県立医療大

つくば・浅野さんデザイン

って気持ちを口にするのが苦だ。人間関係をうまく築けず孤立してしまったり、訓練やリハビリを重ねて8年前から一人で暮らし、就労支援施設に通う。他にも合唱団に所属し、自立した生活を送る。

浅野さんはスケッチブックに23案を描き、その中から同センター職員が選考して2案に絞った。

缶バッジは配る対象別に3種類。当事者用は双葉のイラストで「まだまだこれからずっと見守って」の言葉が添えられている。高次脳機能障害は周囲のサポートやリハビリによって回復



完成した高次脳機能障害の啓発用缶バッジ

する。これから伸びる双葉と回復途上の当事者を重ねた。支援者・家族用は6色の

甲羅を持つ亀。頭と手足を引っ込めて身を守る姿は浅野さん自身だ。浅野さんは「周りが早いと私は亀になる時もある」と言う。「ゆっくりと回復を見守りませよメッセージを付けた。完成した缶バッジは9月29日、同大で開かれた県立

催の研修会で披露された。浅野さんは家族や支援者約80人を前に思いを語った。「自分の歩幅で焦らないでほしい」

缶バッジは家族会や同センター主催の研修会などで配布する。(斎藤明成)

ドクター大田の リハビリ忍法帖 第585回 超高齢化社会の自助共助

9月29日に県立医療大学で、茨城県高次脳機能障害支援センターと「脳損傷友の会(ほらき)」の共催による研修会が開かれた。センター長の小原昌之さんがセンターの「モバイ型支援」の機能を説明し、その後、友の会会長の丹羽真理さんが家族の立場から、もう一人シンガー・ソングライターの藤井ケイイチさんが当事者としての話があり、最後に同じく当事者の浅野(こず恵)さんがデザインした「高次脳機能障害者支援缶バッジ」のお披露目があった。台風24号が襲ってくる落ち着かな



高次脳機能障害支援へ

支援してくれた人たちへの感謝と自分たちの経験を同じ障害のある人に生かしたい、としていることで、その姿勢には共感した。

当事者と家族は自分の中から生まれる苦しみと社会に苦しめられる苦しみの二つの苦しみと闘っている。後者の苦しみは社会が変わらなければ軽減しない。社会を変えるには、当事者と専門家や行政の協力が必要である。それを目指してセンター職員はモバイ型として県内を飛び回っている。

茨城県立健康プラザ管理者 医学博士

大田 仁史

い日だったが、100人近い当事者と家族、支援者が集まった。2時間半の長丁場の会にもかかわらず中座する人はなかった。

丹羽さんは18年間の娘さんの介護の経験を話された。藤井さんは記憶障害の中で「自分は誰なのか」を探し求め、自作の曲を聴く中で少しずつ記憶がよみがえった感動的な話をしてくれた。「心の旅路」という記憶障害者を主人公にした古い映画があったが、その現代版だと思った。

第2回リハビリ講習会に参加して

私にとっての今回の目玉は第2部の「高次脳機能障害者の自動車運転」。

講演者の藤田氏曰く、「大型トラック運転手から作業療法士に転身して病院での実車指導を開始するも当時では難しく、何とかしたいと転がり続けて15年」と。損保会社と組んだ現場の調査研究等を幾つもされていて、バイタリティーを感じる方でした。話すスピードがとても早くて私の頭がついていけない時もありましたが、テーマごとに紹介される研究小ネタに「ヘー、そうなんだ」とか「実際そういうことがあるんだ」と思いながら睡魔に負けることもなく拝聴。特に勉強になったのは道交法改正後の免許更新についてでした。

夫は現在運転免許を持っていますが運転していないので私としてはホッとしています。3年半位前の退院時に担当医から高次脳機能障害がある、又、自動車運転については判断力等の認知機能の低下が見られるのでハンドル操作が遅れる等が考えられるため適性検査を受けて下さいと言われました。退院して2か月後位に



「…、発作のおそれの観点からは、今後1年程度であれば、運転を控えるべきとはいえない。」という診断書を持って適性検査を受けたところ免許はそのまま持っていて良いことになりました。しかし、担当者との会話で夫は「運転に自信がない」と言うと担当者は「それだったら運転しない方が良いです。練習するのだったらこのコースを使えますよ」と言ってくれました。しかし、夫は練習することもなく、全く運転せず今に至っています。しかし、最近は「お前に遠慮して運転していないだけだ」と言っていたので、いつか運転すると言い出すかもしれないとちょっと不安になりました。1年後には「…、発作のおそれの観点からは、今後3年程度であれば、運転を控えるべきとはいえない。」という診断書を提出したので、今回は来年免許更新の数ヶ月前位に診断書提出の案内が来る予定です。

更新時の質問票に虚偽申告すると罰則があるとのことでした。夫に虚偽申告する気がなくても病識欠如や記憶障害があって申告を誤る可能性も考えられるので、虚偽申告にならないように質問票記入時は夫の横に張り付いて監視・口出ししようと思いました。

又、臨時適性検査を受けた結果が免許を持っていたとはいけなくなった場合には運転に支障のある病気を理由とした申請取消制度を利用したら3年以内に改めて臨時適性検査を受けて合格すれば免許証を復活させることができる制度があると知りました。もし夫が免許を持っていたとはいけなくなると落ちてしまったら、こんな制度があることを説明することで少しは希望を持ってもらえるかと思いました。

と、ここまで書いてきましたが、今まで診断書を提出してきたことと免許更新とを別物として考えていた私の認識が間違っている気がしてきました。どなたか正解を教えてくださいませんか。又、相談に行かせて頂きますので宜しくお願い致します。

しんどい作業ではありましたが、書くことでわかったつもりでいた頭の中を整理するきっかけを与えて頂きましたことに感謝します。ありがとうございました。

(池田 尚子)

高次脳機能障害についての勉強会(家族会主催)

外傷性脳損傷による高次脳機能障害を考える

「高次脳機能障害はなぜ理解されにくいのか？」

講師：茨城県立医療大学付属病院 診療部長
神経内科 河野豊 先生

11月19日(月)、牛久市中央生涯学習センターにおいて、河野豊先生をお招きして勉強会を開催しました。先生は以前より、茨城県高次脳機能障害支援ネットワーク協議会(旧システム協議会)の委員として、県高次脳機能障害支援施策についてもご尽力いただいています。



まず、最初のお話しは「高次脳機能障害」の定義は昔と今では大きく変わっているということです。平成13年度から開始された高次脳機能障害支援モデル事業以降、従来の学術的定義であった失語、失行、失認以外の症状にも注目が集まり、記憶障害・注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害も含まれるようになったとのこと。先生も所沢にある国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所に在籍されていた頃、中島八十一先生と共にこのモデル事業に携わってこられたことなど、当時のお話しも聞かせてくださいました。そして、外傷性脳損傷による高次脳機能障害がどのように発生しどう現れるか、なぜ「見えない障害」というように理解されにくいのか、発症のメカニズムから重複する症状の難しさなどのお話しをしてくださいました。

後半は、参加された家族からの質問で、どう対応すればよいかなどの本人へのアプローチのヒントを教えてくださいました。高次脳機能障害は一人ひとり出る症状も違うと言われていますがその人の出来ないことを工夫で出来るようにすること。本人に言葉で気付かせるのが難しい場合は、紙に書いて貼っておいたりして視覚から気付かせる、そして出来たときは褒める。その時に神経伝達物質のドーパミンが出るそうです。ドーパミンは「マイナス要素からプラス要素を見出す」ことで分泌されるそうで、幸福感ややる気が出るといった作用があるそうです。

家に帰り、早速ドーパミンのことを少し調べてみました。人間はドーパミンを分泌させることを目的として生きているようなもので“生きる意欲を作るホルモン”とも言われているそうです。多量に出ているとお腹がすかないそうで、ダイエットにも良いそうです。逆に精神的ストレスを感じると脳内の活動性を低下させてしまうので、ドーパミンを沢山分泌させる工夫、是非やってみたいと思いました。

コラージュ教室に参加して

今年初めて「コラージュ」に当事者の娘と私(母)で参加させていただきました。娘は学校などでやったことがあったようですが、私は全くの初めて。雑誌や写真、絵など気になったものを切り取り、スケッチブックに貼っていくものらしい。そんな感じの知識しかなく、ちょっと緊張しながら参加しました。

会で保管してくださっている雑誌はたくさんあり、自分でも少し雑誌を持って行ったのですが気がつけば娘の気に入りそうなものばかり。私が心動くものは少なかったです。

みなさんとおしゃべりしながら、「これ素敵だよなー。」「今日はこんなのが気に入らなー。」などと他愛のない会話から「自分の心動くもの(風景・食べ物などなど)」を見つける時間は久しく感じていなかったようにおもいました。

「こんなところに行ってみたいなあ」「こんなものを食べてみたいなあ」「なんかこれ、いい！」ジャンルも様々なものを心の向くままに貼っていき、出来上がったのがこの(写真)作品。

私が気ままに選んだものを、臨床心理士の先生が「こんな感じなんだね～」と教えてくださり、「あーそうなんだ。」と自分の意識の奥の気持ちを知ることができたように思います。

そして、何より「自分の気持ち」を優先に考えることができたのはスケッチブックの中だったからだとつくづく思いました。

介護をして、いつも当事者優先の私たちにとっては「自分の気持ち優先」のこの時間は本当にありがたかったです。楽しい時間を過ごさせていただきました

みなさんもぜひやってみませんか？

当事者のなかなか難しい気持ちも見せていただけて、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。



交通事故被害者家族ネットワーク主催講習会の報告

10月20日（土）ワークヒル土浦において、高次脳機能障害者支援の講習会がありました。

交通事故被害者家族ネットワークは、交通事故被害に遭われた方々をサポートする会で、各地において勉強会・講演会を開催しています。今回は初めて茨城県での講習会ということで、当会からも滝沢が家族会の歩みと活動について話しをしてきました。



参加者の多くはMSW（医療ソーシャルワーカー）だったそうですが、突然病気や怪我で障害を抱えた患者や家族にとって、MSWは「つながり」をつくる水先案内人とも言えるでしょう。多くの知識や情報を得ていただいて、是非支援に繋げていただきたいと思います。

1. 「高次脳機能障害の症状と支援について～精神科医にできること～」
医師：山川百合子氏（茨城県立医療大学医科学センター精神医学教授）
2. 「交通事故による高次脳機能障害患者の具体的な救済援助と法律上の手続き」
弁護士：古田兼裕氏（交通事故弁護士ネットワーク代表弁護士）
3. 「茨城県内の高次脳機能障害支援の状況と、家族会について」
茨城高次脳機能障害支援センター／脳損傷友の会・いばらき

北関東地区 高次脳機能障害家族会 交流会



11月22日、埼玉県の越谷市市民活動支援センターにおいて、上記講演会主催者である交通事故被害者ネットワークの相談員の方が企画を立ててくださり、群馬県、栃木県、茨城県の家族会代表で交流会をおこなってきました。北関東地区では高次脳機能障害の支援体制がなかなか整わない状況で、医療機関も多くないために高次脳機能障害の当事者・家族は各県をまたいで通院していることも多々あります。こうした状況の中、各県の家族会が交流を持つことで、今後の連携と支援体制のネットワークの構築に繋がればと開かれました。

今回は、埼玉県の家業会も参加されたので4県の状況を聞くことができました。埼玉県、群馬県、栃木県とも医療とリハビリテーションが繋がっており、なかでも栃木県では今年度高次脳機能障害に対応可能な医療機関一覧を公表しました。また栃木県内5病院を地域支援拠点機関に指定し、専門職の支援コーディネーターを配置、市町や就労支援機関、地域の病院、福祉施設などとの連携強化を図っていくそうです。これからも定期的に交流会を続けることで色々な情報交換を行い、茨城県の支援にも繋がっていければと思います。（滝沢）

初めてのクリスマス会



11月17日、県南集会として、つくば市のレストランでクリスマス会を行いました。

今回は県内全域から会員さんが当事者13名・家族13名・支援者2名の合計28名が参加してくださいました。支援者として支援センター長 小原昌之氏・東京医大ST 加藤裕子さんがいらしてくださいました。

今回は「当事者から歌やゲームだけでなく、当事者同士で話をしてみたい」という希望が出され、初の試みとして当事者と家族は別のテーブルで終始過ごしました。

最初、当事者のテーブルは緊張感に包まれ、見ていてヒヤヒヤする感じもしましたが小原氏や加藤さんの声かけやサポート、さらに当事者同士でもサポートし合う姿が見られ、次第に和やかになっていきました。家族のテーブルは最初からおしゃべりに花が咲き、「隣の当事者のテーブルでの話し合いの妨げになってしまうから静かに話しましょう」と声がかかるほど盛り上がっていました。

お店はA型事業所として運営されている「カフェ・ベルガ」会の主旨をお伝えすると丁寧にご対応いただき、担当者は何回か打ち合わせもさせていただきました。お料理は定評のあるハンバーグをメインに、クリスマス会なのでぜひケーキもつきたい！など希望通りにご用意いただき、参加者みなで美味しくいただきました。

家族は、ケーキまで食べ終わった後、テーブルを片付け、椅子だけ持って出来るだけ小さな輪になり、これまた当事者の妨げにならないように小さな声で一人ずつ「〜な今日この頃」というお題で近況を報告しあいました。そこで多く出たのは、それぞれの家族に起こった「あの日」からの出来事。程度の差こそあれ必死に当事者を支え、ほかの家族のことも回してきたそれぞれの思い。多くは語らなくても思いは同じなのだなあとつくづく感じました。

でも、いつも前向きな脳損傷友の会。「じゃあ、私たちだけで旅行でもいく!?!」「温泉行きたい!!」と先を見て明るい気持ちになりましたが、現実的には「とりあえずは次の機会には当事者と近くの別のお店にして、声を出してお話しましょう!!(笑)」と落ち着きました。

宴もたけなわ。最後はミュージシャン藤井さんのギターでクリスマスソングなどをみんなで歌って素敵なクリスマス会を終えさせていただきました。

今回の試みを通して、少しずつ当事者と距離を置く時間も大切だと感じました。それがまた、いい関係をつなげられることにもなると思いました。それには、当事者が安心して楽しんで通える・暮らせる場所が増えることを願ってやみません。いつか、みんなで温泉宿に泊まってゆっくり自分のペースでお風呂に入り、一泊泊まってこられる旅行が現実になる日を夢見て、今日できることを精一杯して、感謝で過ごそうと思えたクリスマス会でした。仲間がいるから頑張れる!私も誰かを支えるそんな人になりたいと思いました。

ありがとうございます!

(笹原)

この一歩から新世界へ

茨城県高次脳機能障害支援センター 小原昌之

家族や親が敢えて入らず、当事者だけのささやかな会を催したいという滝沢会長始め 役員・会員の皆さんの企画を受けて、11月17日土曜日につくばのカフェ・ベルガ会場を貸し切って、当事者のみのミーティング食事会が実現できました。支援者は私と加藤 ST さんの2人でしたが13人の参加者に対し程よかったと思います。支援者が多すぎると当事者グループの主体性はどうしても薄れますし、支援者がいないのも困難が多すぎます。過不足ない程よい支援を心がけたいものです。

当事者だけのグループ体験が持つ回復や成長促進の意義は「当事者の時代」である今、様々な場所で確認され、認識されています。「親や家族亡き後、当事者はどうするのか」という問いは、当事者がまずもって主体的に問えるような支援によって、当事者の強みが発揮される場を提供できればと思います。Y君は「お母さんが新しい事に挑戦しているから僕も今回新しいことにがんばるんです」と言ってくれました。会のファイナーレはFさんのギター演奏に乗って、家族・当事者グループ合同でクリスマスソングを歌って、和やかに終了しました。

今私は、月面に初めて足を踏み入れたアポロ11号のアームストロング船長の言葉を思い出しています。

「この一歩は一人の人としては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」

この「人類」のところは、わたしの頭の中では「当事者グループ」と置き換えられています。決して大げさな事では無いのですが、実は大げさな事でもあったのでした。



県南集会に参加して

東京医科大茨城医療センター 加藤裕子

11月17日(土)、カフェ「ベルガ」での県南集会に参加しました。当事者(+支援者)とご家族は離れた別のテーブルに着いていたのですが、チラチラと見てお互いを気にしつつ…会が始まりました。

当事者の自己紹介は、みんながわかるように一人一人名札を見せながらゆっくりと進められました。おいしい食事をいただきながら、「薬は何を飲んでるの?」、「仕事はどう?」等、いろいろな話が弾んでいるようでした。その後、ご家族の席替えを見たある方の発案と掛け声で「席替えタイム」となり、また違う顔触れで楽しく話をされていました。

ご家族から少し離れたところで、当事者同士で困っていることを話したり、苦手な部分を助けたり、連絡先を交換したり、皆さんがお互いに確かな仲間がいることを感じていたように見えました。数年前から時々参加させていただいていますが、当事者やご家族の方とお話することだけでなく、少しずつ変化を感じることも楽しみの一つとなりました。

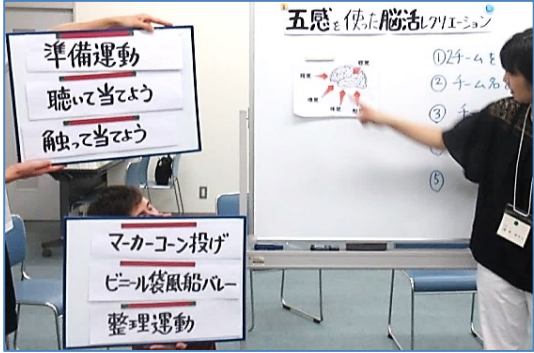
また次にお会いできる機会を楽しみにしています。ありがとうございました。

県北の広場

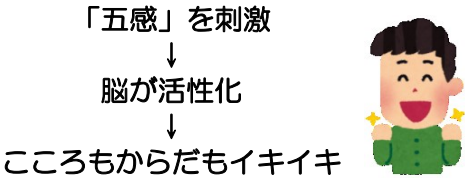
平成30年度 第4回県北集会 平成30年10月7日(日)
 内容 : 五感を使った脳活レクリエーション
 場所 : 水戸市福祉ボランティア会館 中研修室
 参加者 : 15名(当事者2名、家族5名、支援者4名、学生4名)

10月の県北集会は『五感を刺激する活動』をテーマに行いました。

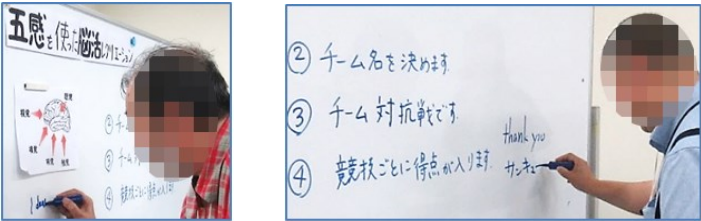
「脳の図」を元に「五感」について説明



「五感」とは…
 聴覚・視覚・触覚・嗅覚・味覚



チームに分かれ、相談して決めたチーム名を板書



何をするのかな?…と想像して
 ワクワク・ドキドキするのも

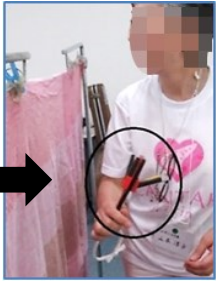


I dear (アイディア) thank you (サンキュー)

● 聴いて当てよう (聴覚)



聴いたことのある音に
 集中して、耳をすませて…



● 触って当てよう (触覚)



「焼きいも」「落花生」「延長コード」
 「そろばん」「ベルト」「たわし」… など
 隠されたボックスの中に手を入れてドキドキ



● マーカーコーン投げ (視覚)



マーカーコーンをフープめがけてポン！！

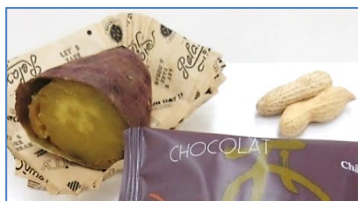
● ビニール袋風船バレー (視覚)



カラフルな風船に 力強いアタック！！



● おやつ (味覚・嗅覚)



レクで使った「焼きいも」と「落花生」がおやつに！！

チームの仲間を意識し、体を動かして、元気に楽しく活動できました。場を盛り上げるスリリングな掛け声やドキドキした表情に共感する声、仲間のファインプレイに拍手する場面もあり、いつも増して盛り上がったように思います。普段は意識しない感覚を研ぎ澄ませ、脳を活性化できたのではないのでしょうか。「またやりた～い！！」



(報告：酒井ゆかり)

支援者紹介

水戸メディカルカレッジ 言語聴覚療法学科 2年生の学生さん



岩本拓也

現在、様々な障害にどんな問題があり、どう支援できるかを学んでいます。集会に参加し、当事者様・ご家族の方は共に笑顔で楽しそうに活動しておりますが、机上で学んだ事とは異なる悩みを抱えながら、集会を楽しみに日々の生活をしている事を知り、皆様のお力になれるよう知識を蓄え、寄り添えるような医療者になりたいと強く感じました。



小林正志トルーマン

今学んでいる事は嚥下や高次脳機能障害や失語症などの他、子供の発達障害や補聴器と、多岐にわたります。友の会の参加を通じて当事者様やご家族様の生の声を聴いて、もっと深い知識があれば「もっと皆さんの役に立てるかもしれない」と参加するたび熱い思いがこみ上げます。



小林 壱成

私は昨年から約一年間、友の会に参加させて頂いています。毎回当事者の方々をはじめ、支援者の方々、先輩方、特に当事者の方々との関わりは、私自身がSTの学生であるから勉強になるという事でなく、人対人としての関わりを強く感じております。友の会に参加できていることを誇りに思い、これからも関わっていきたいと思います。



山口建

現在、学校では、将来私たちが臨床の現場で必要となる知識を学んでいます。友の会では、当事者様との関わりやご家族様の気持ちを聞かせていただくことで、「人の支えになりたい」という気持ちを忘れず、目標に向けて勉学に励むことができています。



神栖の広場

神栖集会からの報告

- 9月26日（水） 支援センター：山中コーディネーター
会員：4名
相談者：1名
- 10月28日（水） 支援センター：小原センター長
会員：4名
相談者：1名
- 11月28日（水） 支援センター：清水コーディネーター
会員：5名



※ 4月から集会に参加されていた古澤さんが、9月27日につくば保健所で体験発表をされました。そして10月に本会に加入されました。

大人と子どもの高次脳機能障害を考える会

11月22日に、筑波大学付属病院にて開催されました。今回の事例の方は、高次脳機能障害を発症後、職場復帰されています。住まいは職場の近くにあり、通常は職場まで徒歩通勤しています。最近になって自転車で行くことがあり、昨今の自転車事故の報道も多くあることから、家族は心配してその対応に戸惑っているとのことでした。

自転車に関してだけでなく、各種専門職の参加者からは様々なアイデアや情報、助言をいただきました。ご参加いただきました皆様、会場を準備くださいました方々、ご協力をありがとうございました。

今困っていること、悩んでいることがありましたら、事例検討会で意見や情報の交換をしませんか？どなたでもご参加いただけます。ぜひご連絡ください。

連絡先 丹羽まで 090-6540-3241

第2回心の健康づくり講演会

11月26日、ひたちなか保健所主催で地域住民への普及啓発のための講演会があり、参加してきました。

まず、支援コーディネーターの寺門正人氏が高次脳機能障害支援についての基礎講義を、次に当事者の藤井ケイイチさんが、支援センター長小原昌之氏とのセッションで体験談を話されました。県立リハビリテーションセンターの時から行われてきた普及啓発事業、今回の講演会で茨城県全ての保健所を回られたそうですので、支援のネットワークが広がることを期待したいです。

頑張ってる人⑥

◎ 行動派の青年です！！

つくば市花畑 池田 清さん

池田さんは 26 歳の時に友人の運転する車で交通事故にあい、脳挫傷になりました。その後「高次脳機能障害」が残りましたが 5 年かけて卒業論文を書き上げ、大学院を卒業しました。現在はつくば市にある「高エネルギー研究機構」で研究支援者として毎日元気に働いています。



☆最近がんばっている事は？

筋トレです。仕事が終わってから、週に3回程度ですが、「つくばウェルネスパーク」というスポーツジムに通っています。職場の近くにあるので、とても通いやすいです。ランニングマシンや様々な筋トレのマシンので、2～3時間くらいやります。短時間ですが、からだを動かして汗を流すのはとても気持ちがいいです。もう少し慣れてきたら、水泳にも挑戦したいと思っています。

☆ほっとするのは、どんな時ですか？

行きつけの和食の料理屋さんで、食事をしている時でしょうか。お酒が好きなので晩酌をしながら食事をするのですが、最近は健康を考えて「ビール」よりも「ホッピー」を飲むようにしています。(数年前の健康診断で、少し心配なところが見られたので) 気を付けるようになってから、健康診断の結果もよくなりました。

☆行動派の池田さんが出かけるのは、どんなところですか？

◇ 醸（かもし）カフェ

東京の西荻窪にある、発酵食専門の醸カフェに行ってきました。普通のカフェとは違って、ちょっと変わった色々な体験ができるので、とても興味を持ったのです。今迄に印象に残った体験としては、「魚のさばき方」と「燻製づくり」をしてきたことです。

◇ 若い失語症者の集い

主に東京で開かれている失語症を抱えている方たちの会です。現在は2か月に1回、偶数月に開催されています。10代から40代の方々が中心の、若い人たちの集まりです。会の内容としては、まず自己紹介を兼ねて近況報告をし、そのあと、一つのテーマで話し合いをします。色々な人と知り合えるので、楽しく参加しています。

◇ NPO 法人ビートスイッチ

仙台市にある障がい者の団体の名前です。学生時代に住んでいた仙台なので、とても親近感があり、インターネットで体験発表会があることを知り参加したくなりました。

◎ 池田さんは好奇心が旺盛な方で、とても行動力があります。家族会関係の様々な行事にも、積極的に参加してくれます。また、月に1回開かれる「交流室」にも、毎回参加されて、相談に来られた方の話し相手になってくれたり、アドバイスをしてくれたりしています。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ④

医療法人社団 弘明会
さとう障がい者支援センター
住所 守谷市野木崎 521-1
☎0297-21-1770

2014年 事業所開所

（さとう内科・脳神経外科クリニックに併設）

◎機能訓練 10名・生活介護 10名

※送迎サービス対応



さとう障がい者支援センター

さとう内科脳神経外科クリニック さとうデイケア・リハビリテーションセンター

さとう居宅介護支援事業所 さとうクリニック第二診療所

〒302-0117 茨城県守谷市野木崎521-1

TEL.0297-21-1770 FAX.0297-21-1730

URL:<http://www.sato-naika-nougeka.dr-clinic.jp>

E-mail:moriya-shi@sato-naika-nougeka.dr-clinic.jp

現在、機能訓練は 25 名、生活介護は 30 名の利用者が契約し通所しています。

他の施設にはない特色として、ロボットスーツ HAL 自立支援用（単関節タイプ）を使用したりリハビリにも取り組んでいます。

理学療法士等の専門職による個別リハビリにより、身体機能向上や自立した日常生活ができるよう支援していきたいと思っています。

食事やおやつは、施設の管理栄養士により、きめ細やかな提供が可能です。利用者の日々の体調やご要望を伺い、中長期的な摂食機能の変化なども他職種と連携して対応します。

利用者一人一人のニーズに合わせた美味しい食事を提供できるよう努めています。



シャワーバス



【滝本事務長さんにお話を伺いました】

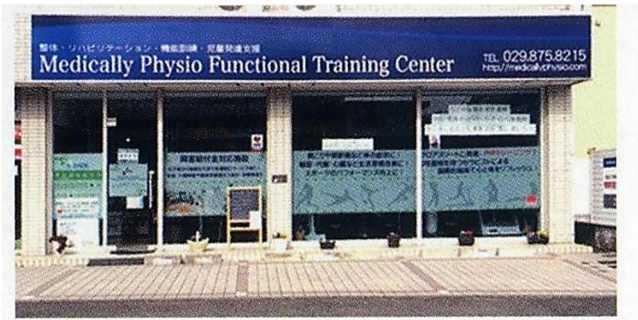
チェアバスやシャワーバス等の機械浴が、4種類あり、利用者の身体機能に応じた入浴を提供できるのも大きな特徴です。また医療ケア等が必要な方でも受入可能です。その他、外部講師やボランティアの方々の協力を得て、趣味や娯楽の時間も大切にしています。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ⑤

ファンクショナル トレーニング センター
Functional Training Center

住所 つくば市竹園 2-8-16
第1小竹園ビル1F
☎ 029-875-8215

平成27年9月 開所
◎自立訓練（機能訓練）
※送迎サービス対応



おしゃれな「スポーツジム」を想像させるような正面でした。
現在30名の方々が通所しているそうです。（1日10名）約20kmが送迎圏内
で、竜ヶ崎から来られる方もいるとのことでした。
スタッフはPT7名、OT2名、ST2名、看護師7名です。



自立機能訓練は平日（月～金）の午前中になります。午後は、児童発達支援や放課後デイサービスを行っています。

身体の自立機能訓練だけではなく、失語症や高次脳機能障害の方の脳トレなどにも取り組み、地域生活への移行を支援します。また、出張訓練も行っています。

センター長の立元さんにお話を伺いました。

当センターは、地域医療における予防治療や健康促進事業に貢献することを目的に設立されました。また、当センターには看護師が常駐しています。継続して医療行為が必要な方も、安心してリハビリができるように、AED や酸素・吸引器なども完備しています。

お知らせ

◇以前、会員の皆様にご協力をいただきました、渡邊 修先生（東京慈恵会医科大学付属第3病院 リハ医）からのアンケートの報告書が届きました。総括の部分だけを、会員の皆様には会報とともに同封してありますので、どうぞご覧ください。



◇寄付をいただきました。ありがとうございました。

前号でご紹介しました「機能訓練センター フリュージェル」（常陸大宮市）に通われている、鈴木康夫さんから、本会のためにとご寄付（7,600円）を戴きました。これは、鈴木さんがリハビリとしてされている「組み紐」の作品展を開かれたときに、会場に募金箱を設置され、集まった善意の募金とのことでした。

☆ 県南集会（クリスマス会）の写真です。

